

「高校生が大学生の国際協力活動から学ぶ ～今、できることはいくらでもある！～

支援団体：特定非営利活動法人国際協力NGO風の会

特定非営利活動法人国際協力NGO風の会は、早稲田大学の学生を中心に活動するNPO法人で、カンボジアを始めとする発展途上国の子供たちを対象とした教育支援を行っています。現地での学校建設事業を実施するとともに、大学の長期休暇中にメンバーが渡航し、現地で生活支援や支援先の子供たちとの交流活動を行っています。

国内でのプロジェクトの1つとして、小中高校で国際理解教育の授業を実施しています。実際に国際協力活動を体験する複数回のプログラムもありますが、今回は、都立武蔵高校で実施した2時間のプログラムを紹介します。

実施日時：平成25年2月20日（水） 実施場所：都立武蔵高校 対象：1年生 5クラス



今回の授業は、教科「奉仕」の最後の時間です。都立武蔵高校では、土曜日や夏季休業中に高齢者対象の活動の補助、地域夏祭りや行事の補助など、地域で様々な奉仕体験活動を行ってきました。今回は、生徒にとって年齢が近い大学生が行っている国際協力活動を知ること、社会貢献活動を幅広く捉えるとともに、進路や将来を具体的に考えるきっかけとなるよう、風の会に依頼しました。

●風の会の活動紹介

最初の時間は、風の会の活動について視聴覚ホールで1年生全体が聞きます。風の会が教育支援活動を行っているカンボジアがどのような国か、そして風の会の4つのプロジェクト等について、大学生が交替しながら説明しました。

風の会が建設する前の小学校は、わらの屋根と柱が4本。壁はなく、屋根の下に黒板が見えます。「これが小学校です。」と写真を紹介した時は、生徒からどよめきがおきました。そして、風の会が建設した新しい学校も紹介。楽しそうに勉強している子供たちの笑顔が印象に残ります。その他にも、カンボジアでの英語教室の運営や、ワークキャンプで訪問した時の交流の様子など、写真を中心に話しました。



●なぜ風の会で活動しているのか。そして将来の夢は。

2時間目は、教室に戻り、5つの教室で大学生が個性豊かに話します。



高校生時代の部活やエピソード。国際協力活動にはあまり関心がなかったけれどメンバーの人柄に惹かれて会員になり、今は積極的に活動していること。企業から学校建設の寄付をもらうために、どのように交渉するか悩んだこと。現地での子供たちとの交流の楽しさなどの大学生の話を、生徒たちは真剣に聞いています。会場を教室に移したので、質問も積極的に手があがります。

20分で交替し、違うクラスで話したことで、生徒たちは2名の大学生から話を聞くことができました。



自らが行動すれば、実現できることはたくさんあること、そして、それを仲間とともに作り上げていく楽しさも伝わった授業でした。

支援団体・支援プログラム情報：

特定非営利活動法人 国際協力NGO風の会 <http://kazenokai.com/tokyo/>